

# 福岡県米麦大豆生産改善速報第1号

平成31年4月23日  
福岡県  
福岡県米麦品質改善協会

## 麦類の生育概況と成熟期予測

### 1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	3月20日～4月21日 (33日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	13.5	19.4	8.5	232	49
前年差(比)	±0	+1.1	-0.7	154%	21%
平年差(比)	+1.0	+1.9	+0.9	132%	37%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

### 2. 麦類の生育と今後の予測 [小麦:11月20日播種、大麦:11月26日播種]

3月20日～4月21日の平均気温は平年に比べて1.0℃高く、日照時間は32%多く、降水量は63%少なかった。

出穂期は、平年に比べて小麦で5～9日、大麦で10日早かった。全穂数は、小麦で平年並～22%多く、大麦で6～46%多かった。4月22日以降の気温が平年並で経過した場合、成熟期は小麦で2～5日程度早く、大麦で4～5日程度早くなると予測される。

### 3. 今後の対策

#### (1) 排水対策

今後の降雨が麦類の収量、品質に及ぼす影響は大きく、排水対策の徹底が重要である。降雨後、速やかに地表水の排水を図るため、排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備する。

#### (2) 適期収穫

成熟期が平年に比べて早くなることが予想されるため、共乾施設の運営委員会等を早めに開催して、荷受計画を作成する。

早刈りは、損傷粒の増加や品質低下を生じやすく、特にビール大麦では発芽率の低下や剥皮の発生が多くなる場合があるので、穀粒水分が25%以下になってから直ちに収穫を行う。

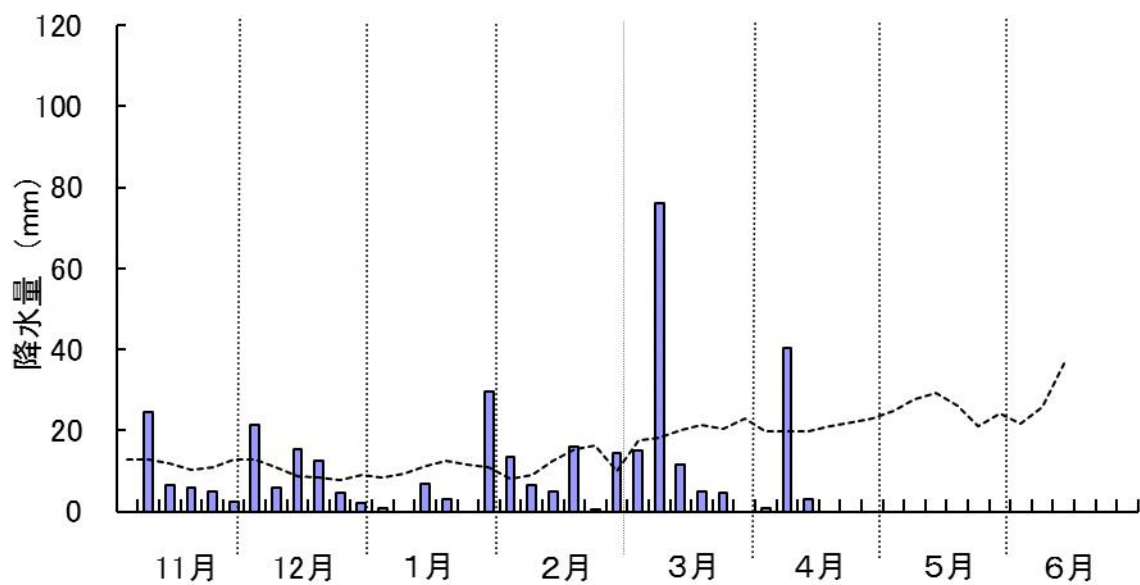
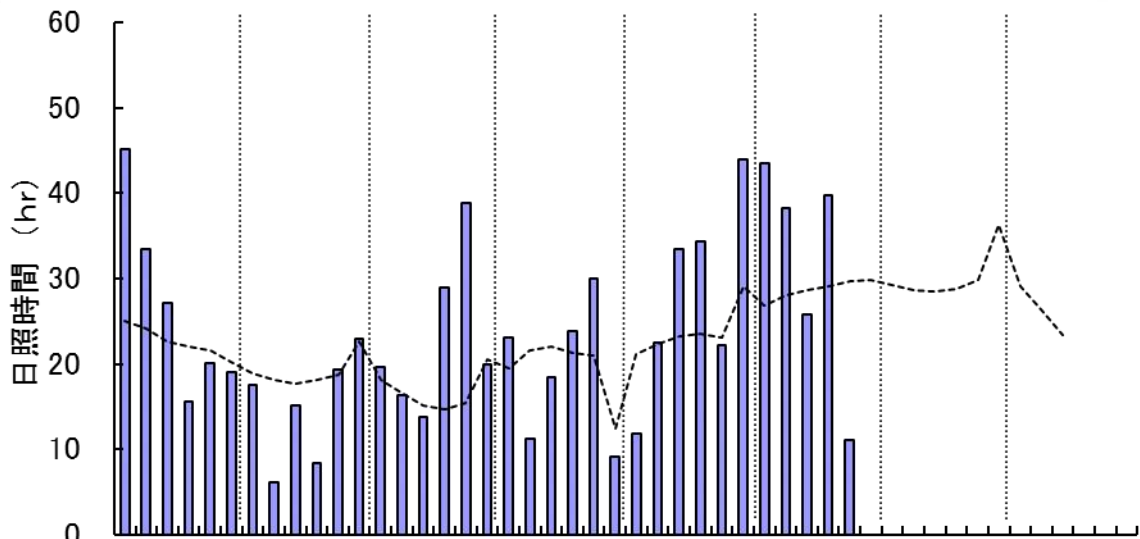
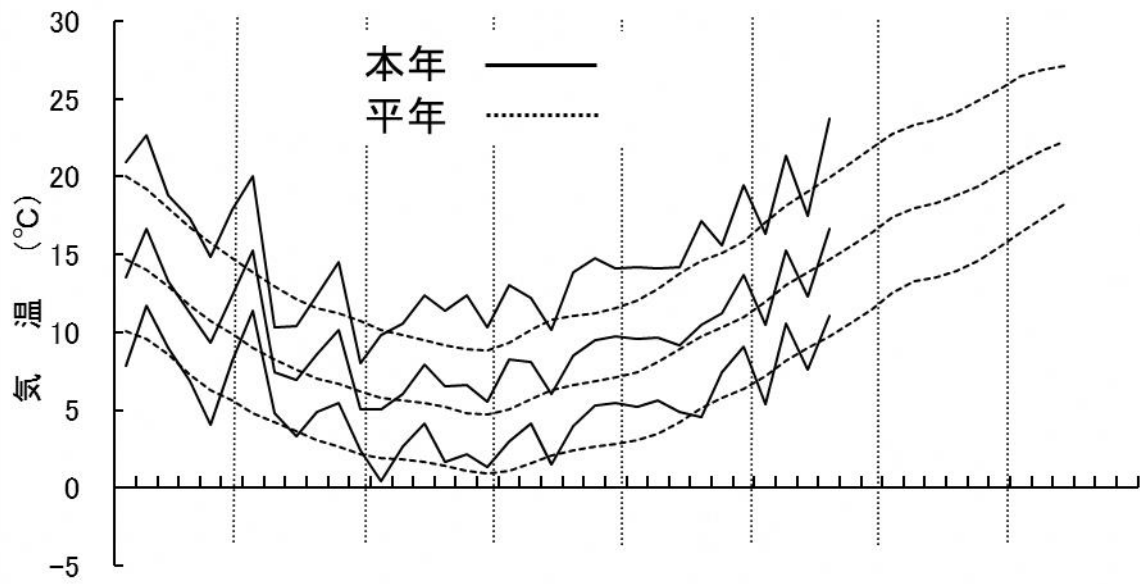
4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	出穂期 月/日	開花期 月/日	予想成熟期 月/日	全穂数 本/m <sup>2</sup>
農産部	11.20	チコイヌミ	本年	4/1	4/13	5/27	566
			前年比(差)	-11	-5	-3	115 %
			平年比(差)	-8	-7	-4	118 %
	11.26	ほうしゅん	本年	3/30	—	5/14	675
			前年比(差)	-11	—	-3	129 %
			平年比(差)	-10	—	-5	146 %
筑後分場	11.20	シロガネムギ	本年	4/2	4/13	5/24	512
			前年比(差)	-6	-3	-1	104 %
			平年比(差)	-5	-3	-2	96 %
	11.26	はるしづく	本年	3/25	—	5/13	633
			前年比(差)	-11	—	-4	127 %
			平年比(差)	-10	—	-4	106 %
11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	3/30	4/11	5/26	495	
		前年比(差)	-12	-6	-4	112 %	
		前9年比(差)	-9	-7	-5	122 %	

注1) 平年値はH20～29年播の平均値。

2) 予想成熟期は4月22日以降の気温が平年並で推移した場合の予測値で、今後の平均気温が1℃上下すると成熟期は±1～2日変動する。予測法は福岡県麦栽培技術指針を参照。

3) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成30年11月～平成31年4月)